

お問い合わせ	部 署：総務部危機管理課
合わせ先	電話番号：082-420-0400



令和2年7月豪雨災害について

1 令和2年7月豪雨における降雨の特徴

(1) 時間雨量（正時）《R2.7/13～7/14》

順位	観測局名	時間雨量	観測日時	備考（H30.7豪雨災害時）
1	高美が丘	26.0 mm	7/14 5:00～6:00	※上位2地点 ①志和（気）：55.0mm （7/6の19:09までの1時間） ②東広島（気/原地区）：54.5mm （7/6の20:05までの1時間）
2	志和（気）	25.5 mm	7/14 4:00～5:00	
3	宇山	25.0 mm	7/14 5:00～6:00	
4	福富ダム	24.0 mm	7/14 3:00～4:00	
5	久芳	24.0 mm	7/14 5:00～6:00	

(2) 累加雨量《R2.7/13～7/14》

順位	観測局名	累加雨量	観測日時	備考（H30.7豪雨災害時）
1	福富ダム	188.0 mm	7/13 0:00 ～7/14 7:00	※上位4地点 ①三津：521mm、②志和（気）：488mm ③黒瀬：486mm、④下三永：452mm ※参考：宇山は412mm
2	久芳	177.0 mm		
3	志和（気）	169.5 mm		
4	安宿（気）	166.5 mm		
5	吉原	163.0 mm		
6	宇山・乃美	158.0 mm		

(3) 令和2年梅雨における7月の総雨量《R2.7/3～7/14》

順位	観測局名	総雨量	備考
1	志和（気）	569mm	※令和2年の梅雨は、梅雨前線が長期にわたって本州付近に滞在したことから、総雨量（宇山では484mm）は7月の約半月（7/3～7/14）だけでも例年の7月分（236.8mm）の2倍程度と多い状況となった。
2	福富ダム	540mm	
3	久芳	495mm	
4	宇山	484mm	
5	安宿（気）	462mm	

2 令和2年7月豪雨の被害状況について（7/13から7/25までの聞取り件数）

	西条	八本松	志和	高屋	黒瀬	福富	豊栄	河内	安芸津	計
人的	0 (4)	0 (4)	0 (5)	0 (4)	0 (4)	0 (1)	0 (3)	1 (3)	0 (10)	1 (38)
建物	0 (131)	4 (71)	0 (202)	1 (83)	1 (100)	0 (32)	2 (51)	2 (93)	0 (135)	10 (898)
道路	7 (239)	9 (162)	5 (260)	10 (247)	5 (301)	9 (181)	5 (133)	14 (210)	7 (309)	71 (2,042)
河川	1 (143)	12 (147)	10 (253)	3 (165)	3 (237)	5 (72)	8 (68)	4 (101)	0 (264)	46 (1,450)
ため池	1 (36)	1 (23)	1 (32)	0 (31)	0 (54)	0 (15)	1 (17)	1 (20)	0 (16)	5 (244)
水路	1 (125)	6 (92)	8 (197)	3 (135)	7 (157)	7 (83)	4 (88)	5 (96)	1 (137)	42 (1,110)
農地	1 (100)	2 (81)	5 (270)	5 (192)	0 (258)	6 (101)	5 (126)	1 (196)	2 (173)	27 (1,497)

	西条	八本松	志和	高屋	黒瀬	福富	豊栄	河内	安芸津	計
宅地	1 —	0 —	0 —	1 —	0 —	1 —	1 —	0 —	0 —	4 —
山林	0 (103)	1 (53)	2 (127)	0 (169)	1 (76)	2 (48)	0 (58)	1 (99)	1 (114)	8 (847)
崖	0 (16)	1 (13)	2 (31)	0 (44)	0 (25)	2 (8)	0 (8)	0 (7)	1 (17)	6 (169)
その他	2 (57)	1 (63)	3 (74)	5 (60)	0 (54)	0 (30)	8 (38)	0 (72)	4 (87)	23 (535)
合計	14 (954)	37 (709)	36 (1,451)	28 (1,130)	17 (1,266)	32 (571)	34 (590)	29 (897)	16 (1,262)	243 (8,830)

※()内の数値はH30.7 豪雨時の件数

3 河内町宇山地区における崖崩れについて

(1) 河内町宇山地区における「今回の豪雨」と「平成30年7月豪雨」の雨量等の比較

区分 (雨量等)	今回の豪雨 (7/14 午前6時) ※崖崩れ発生直後	平成30年7月豪雨	
		7/6 午後8時 ※時間雨量のピーク時	7/7 午前6時又は7時 ※土壌雨量指数等のピーク時
60分雨量	25mm	53mm	(午前6時時点) 24mm
累加雨量	152mm	271mm	(午前7時時点) 410mm
土壌雨量指数	158	210	(午前6時時点) 260
半減期72時間 実効雨量	221.1mm	259.9mm	(午前6時時点) 367mm

※上記の「土壌雨量指数」(降った雨による土砂災害危険度の高まりを把握するための指標)は、当該地区における降水量をもとに算定しており、特殊要因は加味(水が集まりやすい場所の場合の補正等)していない数値です。

(2) 学識経験者による現地調査

- ・令和2年7月20日(月) 14時00分～(現地調査終了後に現地で調査結果を説明)
- ・7月13日から14日の大雨で、東広島市河内町宇山地区内で発生した土砂災害の発生要因を確認するため、広島大学大学院 防災・減災研究センター長の海堀教授及び広島県、東広島市により現地調査を行った。

(3) 現地調査結果 ⇒ 別紙のとおり

4 考察及び今後の対応について

考察	今後の対応
・夜中で刻々と状況が悪化する中で、適切なタイミングでの避難情報の発信ができなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・前日の夕方における適切なリスク評価 ・避難情報発令基準を順守した避難情報の発令 ・人員体制の見直し、強化 ・土砂災害警戒メッシュ情報で避難情報発令基準に達した場合にアラーム警告等を行うシステムの導入
・土砂災害警戒区域等においては、単に各地区の「土壌雨量指数」や「雨量」の情報だけでは、対応できない。	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が危険な区域(水の集まる場所など)にいることを認識した上で、行政からの「警戒レベル情報」だけではなく、その時々状況を観察した上での最適な避難行動(垂直避難、知人・親戚宅への避難他)が実際にとれるよう、行政側から啓発活動に取り組む必要がある。

5 その他

(1)被災者への対応

ご遺族の方には、支援制度等の適用に向けて、各種届出等の手続き方法や支援制度に関する説明等を進めている。

現地調査結果概要

(広島大学大学院 教授 防災・減災研究センター長 海堀正博)

- 当該地域は、7月初旬からの長雨の影響で、7月14日5時過ぎには実効雨量(半減期72時間のもの)が200mmを超えており、土の中には水分が多く含まれ、斜面の土壌が緩んだ状態にあった。
- また、がけ崩れの起きた崩壊面が調査の時点でもかなり湿った状態であったことや、周辺斜面上部からも何カ所も湧水が確認されるなど、水が集まりやすい場所であったと思われることから、大雨の際にはがけ崩れが発生しやすい条件が存在したと考えられる。
- これに加え、がけ崩れの発生した6時までの1時間に25mmの比較的強い雨を筆頭に、数時間にわたりまとまった雨が降り続いていたことが引き金となり、がけ崩れが発生したと考えられる。
- 斜面中の道路に土砂混じりの雨水が流れた痕跡があり、がけ崩れを起こした斜面にも一部流れ込んでいると判断されたことから、がけ崩れに与えた影響は少なからずあったと思われる。道路を伝っての集排水は豪雨時にはしばしば認められることであり、注意が必要と思われる。
- 今回のような現象は、水の集まる場所については、どこにでも起こりえるものであるが、可能性のある場所はあまりにも数が多くなると思われる。道路構造などにより水の集排水の起きやすい場所があることに地域住民が気づいた場合で大雨の場合には、その水が人家に近い斜面に流れ込まないような土嚢などを使った対応策を当該地区の住民ら自身で実施することも危険度を下げる効果があるものと思われる。
- 被災家屋は、特別警戒区域内に立地していることから、崩壊土砂の力が家屋の耐力を上回る大きな力が働いたものと考えられる。
- 特に特別警戒区域内にお住まいの方は、土砂災害の危険を感じた場合、近くの頑丈な建物や区域外に避難することを考えてほしい。また、がけ崩れの場合は、少なくとも2階以上への避難が有効な場合が多いことを生かしてほしい。
- 土砂災害警戒区域（特に特別警戒区域）においては、ふだんから水の多いところや周辺の水が集中するような場所では、より早めの避難が望まれる。